

令和2年度病害虫発生予察予報第8号（11月）

令和2年11月5日
高知県病害虫防除所

《予報の概要》

作物名	病害虫名	予想発生量※
促成キュウリ	べと病 うどんこ病 タバココナジラミ 黄化えそ病 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	<u>やや多(中央)</u> 、少(中西、西) 平年並(中央)、やや少(中西、西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(中央)、少(西) <u>多(中西)</u> 、平年並(西)、少(中央) <u>やや多(中西)</u> 、平年並(中央)、少(西) 少(県下全域)
促成ナス	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(県下全域) <u>やや多(西)</u> 、少(東、中央) <u>やや多(西)</u> 、やや少(東)、少(中央) 少(県下全域) やや少(県下全域)
促成ピーマン・シシトウ	うどんこ病 黒枯病 ハスモンヨトウ ミナミキイロアザミウマ タバココナジラミ	やや少(県下全域) <u>やや多(東)</u> 、少(中央、中西) <u>やや多(中西)</u> 、やや少(東、中央) 平年並(中央)、少(東、中西) やや少(県下全域)
促成トマト	葉かび病 すすかび病 黄化葉巻病 タバココナジラミ	<u>やや多(中央)</u> 少(中央) 少(中央) やや少(中央)

※（ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部
県東部：安芸市、室戸市および安芸郡の町村
県中央部：高知市、南国市、香美市、香南市、長岡郡・土佐郡の町村、
吾川郡いの町および高岡郡日高村
県中西部：土佐市、須崎市、高岡郡(日高村を除く) 町村および吾川郡仁淀川町
県西部：四万十市、宿毛市、土佐清水市および幡多郡の町村
なお、野菜は「土佐市」を中央部に入れています。

I 気象予報（高松地方気象台 令和2年10月29日発表）

＜予想される向こう1か月の天候＞10月31日から11月30日

天気は数日の周期で変わるでしょう。平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40％です。

週別の気温は、1週目は平年並の確率50％です。2週目は、高い確率50％です。

＜向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
1ヶ月	四国地方	気温	20	40	40
		降水量	30	40	30
		日照時間	30	40	30

＜気温経過の各階級の確率（％）＞

期間	対象地域	低い	平年並	高い
1週目	四国地方	30	50	20
2週目		20	30	50
3～4週目		30	30	40

＜予報の対象期間＞

1ヶ月：10月31日（土）～11月30日（月）

1週目：10月31日（土）～11月6日（金）

2週目：11月7日（土）～11月13日（金）

3～4週目：11月14日（土）～11月27日（金）

II 病虫害発生予想

1 促成キュウリの病虫害

1) ベと病

予 想 発生量：やや多（中央部）、少（中西部、西部）

根 拠

(1)10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年に比べ多く、西部では少なかった。発病程度は中央部で平年よりも高く、西部では平年並であった。

(2)11月は、例年発生が増加する時期であり、発生面積は増加傾向で推移するものの、晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、多発生であった地域も発生面積は平年に比べやや多程度になるものと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

2) うどんこ病

予 想 発生量：平年並(中央部)、やや少(中西部、西部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県中央部と西部で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや少なく、西部で少なく、発病程度は両地域ともに平年よりもやや低かった。
- (2)11月は例年発生が増加する時期であることや、晴れの日が多いと予想されており、ハウス内が乾燥しやすくなると考えられることから、発生面積は増加傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。なお、ショウチノスケフロアブル、プロパティフロアブルを使用した場合、病斑上のかびの褐変、消失は見られないので、防除効果は上位葉への進展など、未発生葉への進展状況で判断する。

3) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや多(中西部)、やや少(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部で平年並、西部で少なかった。発生程度は中西部で平年よりもやや高く、中央部、西部では低かった。
- (2)気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外からのハウスへの侵入も無くなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1)本虫は茎頂部付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4) 黄化えそ病

予 想 発生量：多(中西部)、平年並(西部)、少(中央部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、西部で平年並、中央部で少なかった。また、発病株率は中西部で平年よりも高く、他の地域では平年並以下であった。
- (2)気温の低下にともない本病の媒介虫であるミナミキイロアザミウマの増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、新たな発生は減少すると考えられる。

対 策

- (1)媒介虫であるミナミキイロアザミウマの防除を低密度時に徹底する。また、罹病株は早期に除去し、埋設するなどの処分を行う。

5) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：やや多(中西部)、平年並(中央部)、少(西部)

根 拠

- (1)10月の調査では、県中央部と中西部で発生が見られ、発生面積は中西部で平年よりも多く、中央部でやや多かった。発生程度は両地区ともに平年並以下であった。

(2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になることや、野外から施設内への飛び込みも無くなるので、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

6) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

(1) 10月の調査では、発生が見られなかった。

(2) 気温の低下とともに野外密度が低下するため、ハウス内への飛び込みも少なくなることや、ハウス内での増殖も緩慢となるため、発生は少ないと考えられる。

対 策

(1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産みつけられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

2 促成ナスの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

(1) 10月の調査では、県東部で発生が見られたが、発生面積は平年よりも少なく、発病程度も低かった。

(2) 11月は例年発生が増加する時期であることや、晴れの日が多いと予想されており、ハウス内が乾燥しやすくなると考えられることから、発生面積は増加傾向で推移し、未発生地域でも発生が見られようになると考えられる。

対 策

(1) 他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（西部）、少（東部、中央部）

根 拠

(1) 10月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、発生面積は西部で平年よりも多く、東部では少なかった。発病程度は西部で平年よりも高く、東部で低かった。

(2) 11月は、例年発生が増加する時期であり、発生面積は増加傾向で推移するものの、晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は少なく、発生の多かった地域も、発生面積は平年に比べやや多程度になるものと考えられる。

対 策

(1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（西部）、やや少（東部）、少（中央部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県東部と西部で発生が見られ、生面積は西部で平年よりも多く、東部で平年並であった。また、発生程度は西部で平年よりも高く、東部では平年並であった。
- (2) 気温の低下とともに野外密度は減少するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。またハウス内での増殖も緩慢となるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：少（県下全域）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られたが、いずれの地域も発生面積は平年よりも少なく、発生程度も平年よりも低かった。
- (2) 気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みが少なくなり、増殖も緩慢になる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積はいずれの地域ともに平年並、発生程度は平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない増殖が緩慢になり、野外から施設内への飛び込みも無くなる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は茎頂部付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

3 促成ピーマン、シシトウの病害虫

1) うどんこ病

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

(1)10月の調査では、県東部と中央部で発生が見られ、発生面積は両地域ともに平年よりも少なく、発病程度も平年よりも低かった。

(2)11月は例年発生が増加する時期であることや、晴れの日が多いと予想されており、ハウス内が乾燥しやすくなると考えられることから、発生面積は増加傾向で推移するものと考えられる。

対 策

(1)他の糸状菌病害とは異なり、やや乾燥条件で発病が多くなる。多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。

2) 黒枯病

予 想 発生量：やや多（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

(1)10月の巡回調査では、県東部のみで発生が見られた。

(2)11月は例年発生が増加する時期であり、発生面積は増加傾向で推移するものの、晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は緩慢で、発生の多かった地域も、発生面積は平年に比べやや多程度になるものと考えられる。

対 策

(1)多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。

(2)発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) ハスモンヨトウ

予 想 発生量：やや多（中西部）、やや少（東部、中央部）

根 拠

(1)10月の調査では、県下全域で発生が見られた。発生面積は県西部で平年よりも多く、東部、中央部で平年並であった。また、発生程度は各地域ともに平年並以下であった。

(2)気温の低下とともに野外密度は低下するため、ハウス内への飛び込みは少なくなる。また、ハウス内での増殖も緩慢となるため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

(1)本虫は植物体のみならずいろいろな所に卵塊を産みつける。ハウス開口部にネット被覆をしている場合、ネットに産み付けられた卵塊から孵化した幼虫がハウス内に侵入することがあるので注意する。

4) ミナミキイロアザミウマ

予 想 発生量：平年並（中央部）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で発生が見られ、発生面積は中央部で平年よりもやや多く、その他の地域は少なかった。発生程度はいずれの地域とも平年並以下であった。
- (2) 気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなり、増殖も緩慢になる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるため、低密度時の防除を徹底する。また、薬剤抵抗性が発達しているため、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

5) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少（県下全域）

根 拠

- (1) 10月の調査では、県下全域で見られ、各地域とも発生面積は平年並、発生程度は平年よりもやや低～低かった。
- (2) 気温の低下にともない、野外密度が低下するためハウス内への飛び込みは少なくなり、増殖も緩慢になる。また、ほとんどのほ場でタバコカスミカメ等の天敵が定着し始めているため、減少傾向で推移すると考えられる。

対 策

- (1) 本虫は茎頂部付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、天敵の利用など、農薬以外の防除方法も取り入れる。

4 促成トマトの病害虫

1) 葉かび病

予 想 発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも多かったが、発病程度は平年よりも低かった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であり、発生面積は増加傾向で推移するものの、晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は緩慢で、発生面積は平年に比べやや多程度になるものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出し処分する。

2) すすかび病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも少なかったが、発病程度は平年並であった。
- (2) 11月は例年発生が増加する時期であり、発生面積は増加傾向で推移するものの、晴れの日が多いと予想されているため病勢の進展は緩慢で、発生面積は平年に比べると少なくなるものと考えられる。

対 策

- (1) 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底するとともに、換気によりハウス内湿度の低下に努める。
- (2) 発病葉は早めに除去し、ほ場外に持ち出して処分する。

3) 黄化葉巻病

予 想 発生量：少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年よりも少なく、発病程度も低かった。
- (2) 本病の媒介虫であるタバココナジラミは、気温の低下にともない野外から施設内への侵入は無くなるため、新たな発生は少ないものと考えられる。

対 策

- (1) 媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底する。また、罹病株はほ場外に持ち出し、埋設するなどして処分する。

4) タバココナジラミ

予 想 発生量：やや少(中央部)

根 拠

- (1) 10月の調査では、発生面積は平年並であったが、発生程度は平年よりも低かった。
- (2) 気温の低下とともに、野外密度が低下するため野外からのハウス内侵入はなくなる。また、増殖も緩慢となるため、減少傾向で推移するものと考えられる。

対 策

- (1) 本虫は茎頂部付近に産卵するので、薬剤防除を行う場合、上位葉を中心に発生初期の防除を徹底する。また、本虫は黄化葉巻病を媒介するので注意する。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ (こうち農業ネット)

- ① 病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報
- ② 病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報
- ③ 病害虫発生予察技術資料
- ④ 新しく問題となっている病害虫 etc.